

木登瀬トンネル安全祈願祭

工期内の無事祈る



鎌入れの儀を行う木山社長(左)と
穿ち初めの儀を行う橋口社長＝始良町の現地で

本登瀬トンネル改良工事の安全祈願祭が23日、始良郡始良町上名の現地で開かれ、発注者の福元久夫始良町長や、施工業者の第一建設(株)・橋口組共同企業体、協力業者の笹島建設(株)など、関係者約70人が出席して工事の安全を祈願した。

祈願祭に先立ち行われた神事では、福元町長が刈り初めの儀を、木山裕一第一建設社長が鎌入れの儀を、橋口一二三(株)

橋口組社長が穿ち初めの儀を執り行った後、出席者が次々と玉ぐしを捧げて無事故での完成を祈った。
神事終了後、発注者の福元町長と来賓を代表して新屋幸一始良町議長が「地域住民が待ち望んでいた木登瀬トンネルが国や県、議会の承諾を得て、いよいよ改良工事着工の運びとなったことは誠に喜ばしい」とそれぞれの立場から祝辞を贈り、施工業者を代表して木山社長が「特殊な技術を要する高度な工事であり、施工は名誉なこと。無事故無災害での竣工を誓う」と謝辞を述べた。

木登瀬トンネル改良工事とは町道板ノ口・飛野線の老朽化した既設トンネルを、NATM工法により

魚道について自主研究集会

生態系配慮の工事を



魚道の在り方について学んだ研究集会
＝加世田市の加世田合同庁舎で

の考え方「自主研究集会」を開いた。管内の事例発表や講演に参加者らは、終始真剣な面持ちで聴講していた。

平成13年の土地改良法の改正により、農業農村整備の実施に際し環境との調和への配慮が、これからの公共事業の在り方として追加された。研究会は魚道を中心とした生態系との調和に配慮するために、管内で施工された事例などを参考に、これからの魚道の在り方について考えるために計画されたもので、当日は各行政職員をはじめ、コンサルタントなど約90人が参加した。

あさくま浄化槽メンテナンス

KES・九州初の取得

あさくま浄化槽メンテナンス(朝隈博子社長、本社・薩摩郡鶴田町)は、1月30日付で「KES環境マネージメントシステム・スタンダード」を取得した。登録範囲は、廃棄物収集運搬・処理施設の維持管理、保全業務の同社事業活動のすべて。支援コンサルタントは、NPO法人エコサポートTGA(久留正成理事長、事務局・鹿児島市)。

「大手取引先から15年、グリーン調達をされているかどうかの問い合わせがあった。将来、業者選定の重要な基準になる」と(朝隈一誠会長)と判断、平成15年6月13日にキックオフした。省資源を目標に部門別にガソリン・軽油の3%低減、電気使用量5%低減、新規購入用紙5%削減、具体的な数値目標を設定した。評価にはまだバラツキがあるが、社員24人共通の目標に向かって動き出した。

朝隈社長は「KES導入以前から各部署や個人で経費節約に取り組んでいた。運用を始めてから皆が一生懸命に取り組むようになった。これが一番の成果だ」と語る。

最高責任者は朝隈会長、環境管理責任者は東義光部長、事務局は坂元千栄美さん。

登録証を手にする朝隈会長(左から2人目)と朝隈社長(同3人目)ら

初のボランティア・サポート

国道3号で植栽や清掃



花を植える参加者ら
＝鹿児島市の現地で

15年度までに完成した電線共同溝整備地区において九州地方整備局鹿児島県管轄の国道3号沿道沿いの3通り会の「ボランティア・サポート」プログラムの一環として、国土交通省が管理する直轄道路を対象に、自治体と共に美化・清掃を実施している団体を支援するシステム。

今回の花植え替えは、クリセンセマム・ノースポール300本、アイズランドポピー300本など合計で900本を植えるもの。同日は鹿児島市国道3号伊敷街道沿いの草牟田地区、新照院地区、新上橋地区の3通り会が参加し、花植え替えと水の散布、周辺の清掃等を行った。

顧客の信頼へ全力

中元 克明さん



入社して9年目になります。損害保険、生命保険の企画・営業が中心で、毎日新規開拓に励んでいます。昨年ファイナンシャルプランナーの資格を取得し、仕事の面でも充実しています。また、日頃所長から「元気で、さわ

ら火災保険まで保険のプロとしてお客さまに愛され、おかげさまで今年創立25周年を迎え夏頃式典も予定しています。

ます。これからも所長を含めやさしい6人のスタッフとともに、顧客の方々に信頼されるよう全力を尽くしていきたいと思っています。私はスポーツが好きで、高校、大学時代とラグビーで体を鍛えました。現在は、甲南クラブというチームに所属し、気心知れた仲間と練習や試合に出て汗を流しています。最近では1月にあった高校新人戦で母校甲南高校が優勝したことが、喜びとともに励みになっています。

(有鶴岡保険事務所)